

これまで広島県立呉三津田高校の小論文指導は、大学入試で対策を必要とする生徒が希望した場合に行っていた。だが、希望者は年々増え、一部の教師に負担が集中し始めた。国語科の小路口真理美先生はこう語る。

「生徒は、小論文を少しでもうまく書くこと、国語の教師に書き方の指導を求めてきました。でも、上手な文章が書いても、それが必ずしもよい小論文とは限りません。最近の入試の小論文は書く技術だけでなく、どれだけ幅広い知識を持ち、自分なりの問題意識を持っているかを問います。ですから、さまざまな分野に生徒の目を向けさせ、自分の頭で考える力を育成する指導が早い段階から必要です。10年度に1年生を担当することに決まったとき、この新入生たちには1年次から小論文に取り組ませようと思いました。」

広島県立  
呉三津田高校

## 問題意識を持たせ 自己を表現する 手段として 小論文を活用

小路口先生とともに10年度に1年生のクラス担任を務めた田中清裕先生も、1年次からの小論文指導の必要性を感じていたという。

「参考書に載っているマニュアル的な小論文の書き方を身につけるだけでは、入試の小論文には通用しません。提示された問題に対して幅広い視野と知識を基に自分の考えを導き出し、

それを文章で表現する力が求められています」  
小論文で必要な情報収集・処理能力、自己表現力は入試だけではなく、生徒が社会で生きていく中でも必要とされると田中先生は語る。そんな力を生徒に身につけさせるためには、時間

つてきた。これに加えて、豊かな発想と論理的思考力を持ち、自分の意見をはっきりと他者に伝えられるよう指導に力を入れることになった。新しい小論文指導の中心を担ったのは国語と歴史・公民の教師。教材には「キャリアサポーター」の「小論文アプローチ」が用いられた。「小論文アプローチ」は、思考法や発想法を身につけながら基本的な文章表現を学べるトレーニングノート、新聞の読み方の解説などを通して情報収集力を高め、社会の諸問題についての関心を喚起するワークノートが中心となる。同校では、国語でトレーニングノート、公民でワークノートと分担した。

## 多くの自己表現の機会を もともと同校では、生徒に自分の考えを文章で表現させる指導を積極的に行っていた。

「入学式の日到自己紹介や高校に入学しての抱負などを書かせ、保護者には高校生になった子どもにメッセージを書いていただきます」(進

で環境問題が取り上げられたんです。ちょうどワークノートには環境問題もテーマの一つとして取り扱われていたので、授業のあと、そのページを使って生徒に環境問題について考えを発表させたり、生徒同士で討論させたりしたそうです。ワークノートには新聞のスクラップなどの情報のファイリング方法も紹介されていますから、授業で学んだことを自学自習しながらさ

らに深める道筋が見えたはずですよ」(田中先生)  
ワークノートには環境問題のほか、科学技術・日本文化、情報化、国際化がテーマとして取り上げられている。夏休みには、その中から一つを選んで、ワークノートを参考に小論文を書かせた。また国語では、トレーニングノートを使って文章の書き方の練習に取り組ませた。

## 生徒主体の討論会

同校では、夏休みに1年生を対象にした民間の宿泊施設での2泊3日の「ふれあい体験学習」を実施する。この中で、小論文に必要な「自分の意見を述べる力」を養うためにディスカッションを行った。

「ディスカッションに向けて、地歴・公民、理科、国語の教師が協力して討議資料を作りました。インターネットやクローンなどワークノートの五つのテーマに合わせた題材のほか、教育問題、死刑制度の二つを加えて、進路指導部からそれぞれの分野に詳しい先生方に協力を依頼し、資料を作成していただきました。新聞の切り抜きを使ったり、自分で要点をまとめたり、本の一部を転載したりと、各先生方がそれぞれに工夫して資料を作成してくれました。そして、どの資料にも必ず議論のきっかけとなるような設問を設け、生徒

が討論しやすいようにしました」(小路口先生)  
「また、各クラスを複数の班に分け、生徒が周囲を気にせずに討論に集中できるように1部屋1、2班ずつとしました。教師が各部屋を巡回し、議論が行き詰まっている班があればアドバイスしました。討議の時間は1時間で、各班でなんらかの結論をまとめます。そして、クラスごとに集まって討議の内容を発表しました」(田中先生)

### 三好義城

地理担当

進路指導部長を務めて10年度に1年生を担当。最近の生徒は「自分の意見をしっかりと表現する」など小論文以外でも新しい試みが多い。



### 小路口真理美

国語担当。10年度に1年生を担当し、初めて進路指導部に所属。授業で「自分の意見をしっかりと表現する」など小論文以外でも新しい試みが多い。

### 田中清裕

生物担当

10年度は同校初めての1年生の担任を務め、同時に1学年の進路係を担当した。最近の生徒は「考え方が少し子どもっぽい」進路指導を通じて将来を考えたいという声が多い。



広島県立呉三津田高校

「入学当初、正解を書かなくてはいという気持ち強いのか、なんでも思ったことを書くのが苦手な傾向があった生徒たちが、今はテーマを与えれば自由に書き、なぜそう考えるのかを聞けば、一生懸命に自分なりに考えて答えるようになりました。今後は読書などを通して、さらに知識を蓄積し視野を広げさせたいですね」(小路口先生)

「私だったら……」と生徒が問題を自分に引き寄せて考えるようになりました。こちらがLHRや授業の中でなにか疑問を投げかけて生徒に任せるだけで、自然に議論が始まります」(田中先生)

「確かに、生徒だけでディスカッションが成り立つか心配でした。ですから、夏休みの前に生徒に討議資料を渡して、班分けとテーマ決めを行い、自分なりにテーマについて考えておくように伝えました。また、ディスカッションの

三好先生は、4月より教頭として広島国泰寺高校(定時制)に異動されています。